秀峰通信『啐啄』

No３８　　平成２３年１月６日（木）

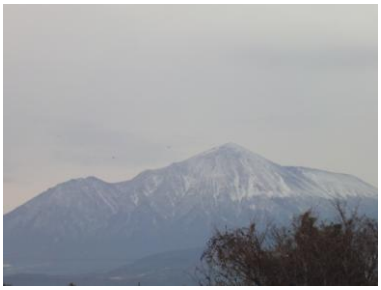
２０１１年　「卯年」　明けましておめでとうございます

〇今年は「卯年」うさぎ年です。どのような思いで、新年を迎えられましたか。毎年のことながら、新しい年を迎えるにあたっては、必ず、「今年はどんな一年にしようか」と考えるものです。

『一年の計は元旦にあり』

うさぎ年は「ジャンプの年」とも言われているようです。個人的には「これまで取り組んできたことのバージョンをアップする年」としたいと思います。生徒たちのために、これまで以上に生徒たちが大きく成長していけるように、「より充実した教育」を目指して、工夫改善に努める１年としていくつもりです。秀峰に関係するみなさんと共に、充実した年となるよう頑張りたいと思いますので、本年もどうぞよろしくお願いします。

「秀峰ブランド」確立のために、一丸となって取り組みましょう！



年末年始に降った雪を頂く高千穂峰

〇年末から元旦にかけて、小林でも珍しいくらいの雪が降りました。バスなどの交通機関がマヒするなど大変でした。その雪は、学校内でも３日の午前中まで、日陰に残っている程でした。真っ白な雪景色を見て、小林秀峰高校の新たな１ページが始まる年であることを感じました。

新体育館と雪景色霧島連山

今年の４月には、農業科・福祉科が開科し、小林秀峰高等学校の新たな歴史が始まります！

〇三学期は、３年生にとっては社会に巣立つ準備の期間、１・２年生にとっては、次の学年の準備の期間（言い換えると、次の学年の０学期）となります。短いですが、それぞれの学年にとって、大切な期間です。また、本校にとっても、新たな歴を築いていくための準備期間となります。

☆新体育館が１月末にほぼ完成。（落成式）
☆小林秀峰高等学校第一回：秀峰一期生の卒業式を３月１日に新体育館で挙行。
☆農業科（食品加工実習棟）、福祉科（介護実習棟）の施設・設備の整備完了。

また、新年度が始まるまでに、決めておかなければならないことなどを二学期末の職員会議で示しましたので、各校務分掌等での検討をよろしくお願いします。

〇２０１１年１月１日の各新聞社の社説の見出しは、次のようなものでした。

☆心にザイルを結び合おう（新たな旅路）・・・地域再生への旅に出発しよう＜宮崎日日新聞＞
☆世界の荒波にひるまぬニッポンを　大胆な開国で農業改革を急ごう＜読売新聞＞
☆今年こそ改革を―――与野党の妥協しかない＜朝日新聞＞
☆扉を開こう　底力に自信持ち挑戦を＜毎日新聞＞

厳しい状況の中、新しい年に希望をふくらませ、日本人であることに自信と誇りを持てるニッポンをどう築いていくのかを考えさせるものでした。改めて、秀峰生を明るい未来を築く人材として育て、社会に送り出さなければと思いました。

新春の本校　　「今年も学校・家庭・地域が連携して、生徒たちを育んでいきましょう！」